

千葉県動物公園湿原ゾーン・森林ゾーン整備基本計画策定等業務委託
基本計画書(案)

概要版

令和6年3月



株式会社翔設計

目次

<u>I. 施設規模及び仕様の検討・設定</u>	
1. 基本事項の整理	
1-1. 計画策定にあたっての基本的な考え方	p. 5
1-2. 森林ゾーン・湿原ゾーン再整備の考え方	p. 6
1-3. 各ゾーンの整備方針	p. 8
<u>II. 動線及び空間デザインの検討・設定</u>	
1. 動線計画	p. 15
2. 空間デザイン	p. 21
<u>III. イメージ図</u>	
1. イメージ図	p. 51

I. 施設規模及び仕様の検討・設定

I. 施設規模及び仕様の検討・設定

1. 基本事項の整理

1-1. 計画策定にあたっての基本的な考え方

生息環境の再現を意識した自然修景で、見ごたえのある風景をつくる。「動物の姿・形」を見せるのではなく「動物の生活」を魅せ、動物たちがいきいきと生活する展示空間を創出する。また、動物福祉基準への対応や希少種の保全事業についても精力的に取り組む。

湿原ゾーン・森林ゾーン整備基本計画策定にあたっては、園全体の施策展開を示した「1. 基本方針」を踏まえ、「2. 湿原ゾーン・森林ゾーンの改修について」に基づき検討を行う。

1. 基本方針

平成26年3月に策定した「千葉市動物公園リスタート構想（以下、「リスタート構想」という）」の実現を図るため、ソフト・ハード両面において時代に即した再生施策展開を図る。特に以下のテーマに一層の注力を図り、推進することを基本方針とする。

- (1) 対象顧客層の拡大
従前の幼児やこども、ファミリー層に加え、より幅の広い世代を対象化し、各世代が楽しみながら学び、交流できる生涯学習の場の構築を目指す。
- (2) 顧客体験と発信情報の質的量的強化
野生動物の体の仕組みや生体の魅力、命の尊厳や大切さに加え、以下のテーマに関しても情報と体験の創出と発信に注力していく。
 - ア 生物多様性や自然との共生
 - イ 動物に関係する文化・芸術・科学
 - ウ 命を取り巻く課題、SDGsに代表される現代人が対峙すべき地球規模の課題
- (3) 公園機能の充実
“憩いと癒し、楽しみながら学ぶ場”としての環境整備
- (4) 新たに取り組むテーマ（リスタート構想策定後に取り組む必要が生じたテーマ）
 - ア 動物福祉基準への対応
全世界的スタンダードの評価プログラムとなる動物福祉基準に適応した飼育オペレーションと展示施設の設置を行う。
 - イ 自国希少種の保全事業
外国産種だけでなく、わが国の希少種の保全に取り組むことで、気づきと学びの領域を拡大する。
(種の保存法に位置付けられた「認定希少種保全動植物園」としての認定を目指す)

基本的な考え方

1-2. 森林ゾーン・湿原ゾーン再整備の考え方

平成26年に施行された「千葉市動物公園リスタート構想」において記載・計画された内容に対し、動物等を取り巻く「入手性」「展示実現性」、「維持・運営面」等の面から検証を行い、時点修正を行った。

【検証の観点】

展示手法の実現性と展示の魅力度（費用対効果）、ゾーンテーマとの整合性、動物福祉基準への対応

コレクションプランの検討

下記視点について検討し、先行した。

- ・「千葉市動物公園リスタート構想」で設定されたゾーンテーマの具現化
- ・日本動物園水族館協会コレクションプランの位置づけ
- ・保持するコストによる持続的維持管理が可能

展示計画の修正点

①森林ゾーン

●見直す計画

・オランウータンの飼育（現在非展示）
特に大型類人猿は動物福祉への対応から、ハード・ソフト面に多くの資源が必要となることから、群れ飼育が前提となるゴリラの飼育と合わせると大きな負担となる。

・サル比較舎（現在7種を展示）
動物福祉を充足させる施設づくりを必要とするが、多くの敷地区画並びに建築構造物を必要とし、他動物のスペースがとれない。



●新たな取組、強化する取組

・ゴリラの繁殖に適う環境整備
国内ゴリラ6園・20頭まで減少している。
園内飼育頭数の1/4は本市所有であるが、これまで繁殖実績が無い。種の保全を推進させるため、本来の群れで生活できる環境を提供する。
(ゴリラは千葉市動物公園のロゴマークに採用されているシンボル種となっている。)

・動物の福祉に配慮した飼育・展示空間の創出
生息環境の再現を意識した自然修景で、見応えある風景をつくる。各飼育・展示施設は、動物福祉を考慮し、各動物種の生理、生態に配慮したものとする。
動物福祉に関連する業務が多くを占め、それらに対処するため、飼育数の絞り込みを行う。

■展示動物

繁殖注力種	ゴリラ、マレーバク、フクロテナガザル
展示テーマを演出するための種	森林性サル、ピントロング、アカカワイノシシ、ホンドザル、キジ類、日本産動物

②湿原ゾーン

●見直す計画

・ウォークスルー型フライングケージ
近年、鳥インフルエンザ発生頻度が高まっており、観覧制限期間が長期化するリスクがある。

・ビーバーのダムづくり
・ビーバーによる「ダムづくり」は恒常的再現並びに、施設の構築、維持には困難である。

・ペンギン・アシカの飼育
・水量の低下等、ランニングコスト面からの考慮
・動物の生息環境展示が必要であるが、これらの種は「湿原ゾーン」生息環境と一致しない。



●新たな取組、強化する取組

・カピバラが家族で悠々と泳ぐ広い池を取り囲むくつろぎの空間
風貌や行動から人気種であり、見る人に対する癒し効果大きい。
国内では温泉につかる姿が有名だが、家族で大きな池に列をなして泳ぐ姿など、本来の生態を観察できる生息環境を再現する。

・ハシビロコウの繁殖に重点を置き、湿原をイメージさせる環境の提供
国内初となる繁殖を目指し、野生に近い環境を整備する。併せて飛翔する姿や営巣活動など本来の行動を発現させる。

■展示動物種

繁殖注力種	ハシビロコウ、カピバラ
展示テーマを演出するための種	カワウソ、ビーバー、スナドリネコ、ショウジョウトキ、ガンカモ類、フクロウ

1-3. 各ゾーンの整備方針

全体及び各ゾーンの計画における整備方針については、以下の通りである。

○全体

共通テーマ：『動物の行動を最大限に引出す』

コンセプト：『行動の裏にある意味を伝える』

目指す展示：・動物福祉向上を図る為に動物の持つ本来の行動を引出すことで、動物も来園者にも精神的に充実した空間を提供する。
・本来の行動を引出すことで動物に対する好奇心を高める。
・その動物が暮らす環境への理解を深める。

効果：動物福祉や自然のつながり、保全への関心に派生していく

②湿原ゾーン

繁殖注力種①：ハシビロコウ

主 題：国内初のハシビロコウの繁殖を目指す

- 取 組：・繁殖行動に繋がる飛翔行動の発現
 ・繁殖期の環境に近づけるための温湿度環境の整備
 ・湿原をイメージさせる環境下での採食行動の発現

具体表現：・ハシビロコウが生息する湿原をイメージさせる修景の再現
 ・飛翔、営巣行動などを引き出せる環境整備

繁殖注力種②：カピバラ

主 題：群れが大きな池に列をなして悠々と泳ぐ姿など、本来の生態を観察できる環境整備
 取 組：国内に多く見られる岩風呂温泉ではなく、本来の生息地をイメージさせる修景の再現
 具体表現：カピバラを引き立たせるための色鮮やかな鳥類との通景展示

展示中核種：ビーバー

主 題：環境改変を行うビーバーの生態を伝える
 取 組：木を倒し、削り巣に運ぶ一連の行動が可能な環境づくり
 具体表現：・既存の森林を活用した生息環境をイメージさせる修景
 ・ビーバーダムを模した施設でのワクワク感の創出

湿原は様々な大陸に存在している。大陸ごとの生物相の違いを紹介するため、湿原に生息する上記動物を中心に、北米ではカラフトフクロウ、アジアではコツメカワウソ、スナドリネコ、南米ではショウジョウトキ、他水禽類等を展示する。

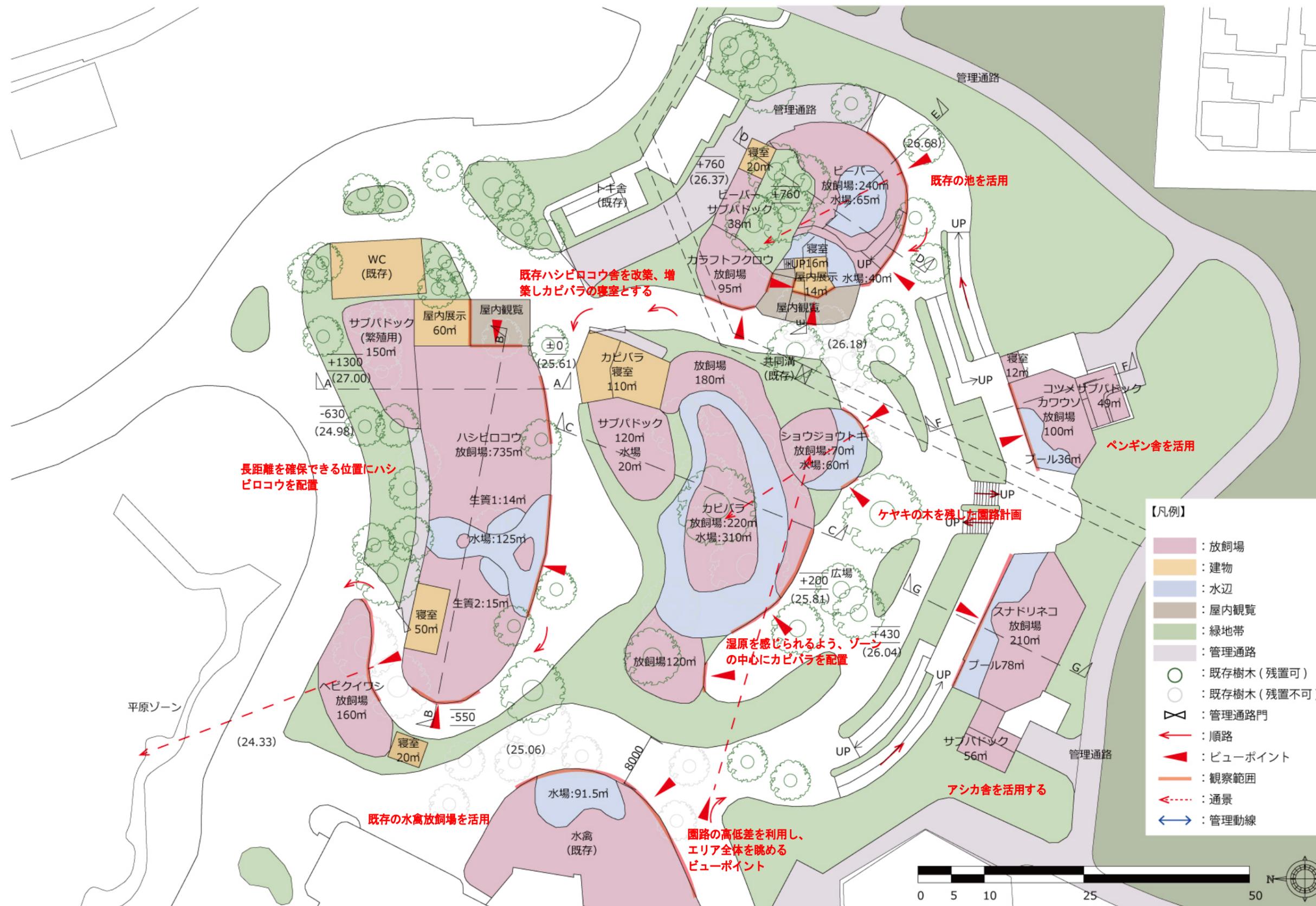
■他候補種一覧表【湿原ゾーン】

	動物種名	想定頭数	理由	代替種案
●	ハシビロコウ	3羽	関を代表する人気動物であり、雌は国内唯一産卵経験をもつ。今までの知見を活かし、国内初繁殖を目指す	—
●	カピバラ	10頭	本来の生息地を思わせる環境を整えることで様々な行動を来園者に見せることができ、国内に存在する岩風呂展示のイメージを払拭する展示構成としたい。	—
●	ショウジョウトキ	5羽	カピバラと同じ生息域を持ち、目立つ色で来園者の視線を垂直方向まで移動させるため。	—
●	ビーバー	5頭	野生下の環境を再現し、本来の行動を引き出すことで来園者の注目を集めることができる。既存の施設では困難であった複数繁殖、群れの長期飼育展示が可能となるため。	—
●	カラフトフクロウ	3羽	ビーバーと同じ生息域を持ち、上下の生息域を活用した展示構成ができるため	アメリカワシミミズク
●	スナドリネコ	3頭	湿原に関係の深いネコ科動物で、新規動物の目玉として導入する。	—
●	コツメカワウソ	8頭	群での活発な行動、水中の多様な動きが魅力的なため。	ユーラシアカワウソ
●	オシドリ	各1~2ペア	湿原において水鳥の存在は必須のため。ただし種数は現在飼育している種を優先に年齢や入手性を勘案し今後の検討する。	
●	アカツクシガモ			
●	サカツラガン			
●	シジュウカラガン			
●	ヨシガモ			
●	マガモ			
●	ツクシガモ			
●	オナガガモ			
●	キンクロハジロ			
●	アカハシハジロ			
●	タンチョウ			
●	ヒロハシサギ			
●	アフリカヘラサギ			
▲	ユーラシアカワウソ	4頭	想定飼育スペースが1種しか確保できないため。	
×	イシガメ		個体が小さいため展示効果は低く、かつ混合展示は動物管理面から望ましくないため。	
×	オオカワウソ	3頭	国内におらず入手継続性が難しいため。	
×	オオサンショウウオ	1頭	理想とする水質維持管理が難しいため。	
×	ヤブイヌ	10頭	入手継続性が難しいため。	
×	クモザル	10頭	混合展示は動物管理面から望ましくなく、本来の群れを維持するスペースを確保できないため。	
×	オマキザル	10頭		
×	リスザル	10頭		
×	シタツンガ	8頭	現ゾーンから移動した後の草原山維持に代わる種がないため。	
×	ジャガー	3頭	既存施設での飼育管理が難しいため。	
×	コビトカバ	3頭	入手継続性が難しいため。	
×	オオアライクイ	3頭	暖房器具が必須で既存施設での飼育が難しいため。	
×	オジロワシ	3羽	本来の行動を維持するスペースを確保できないため。	

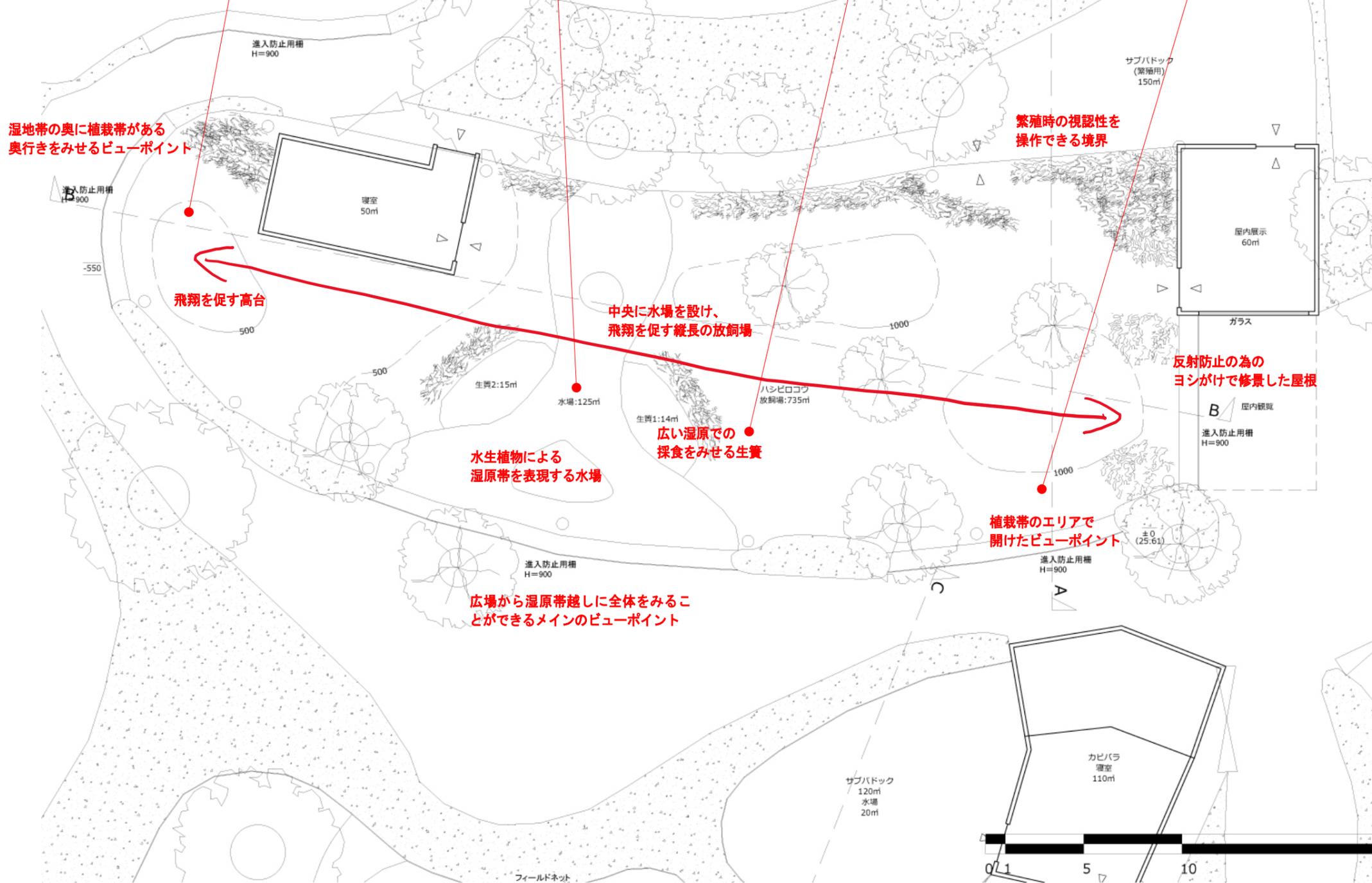
※●：採用種、▲：代替種、×：断念種

II. 動線及び空間デザインの検討・設定

1. 動線計画 ③湿原ゾーン

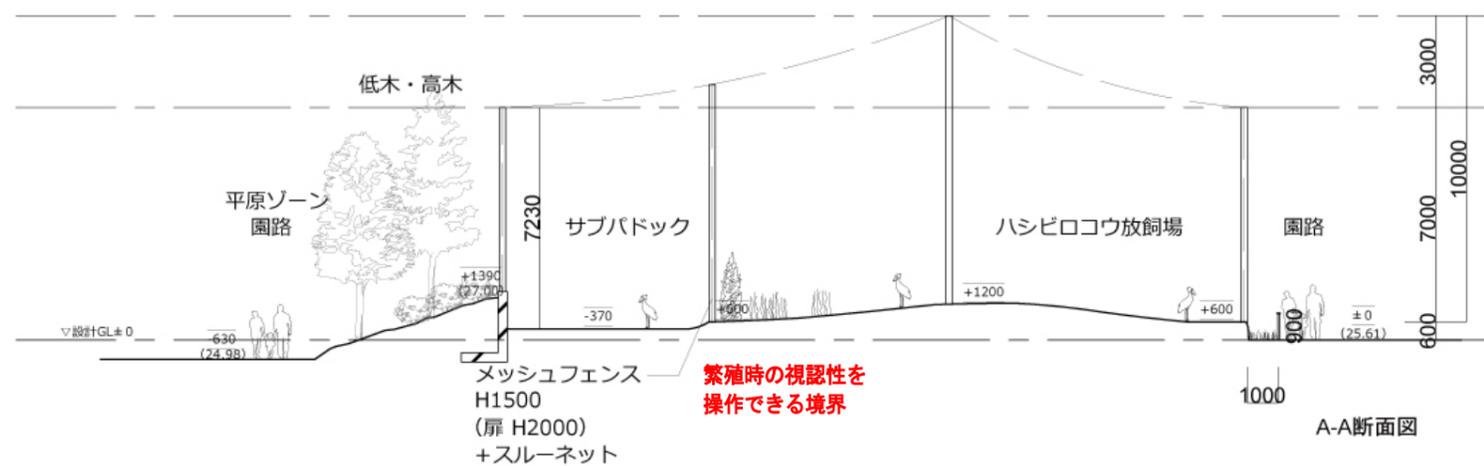


2. 空間デザイン ③湿原ゾーン ハシビロコウ

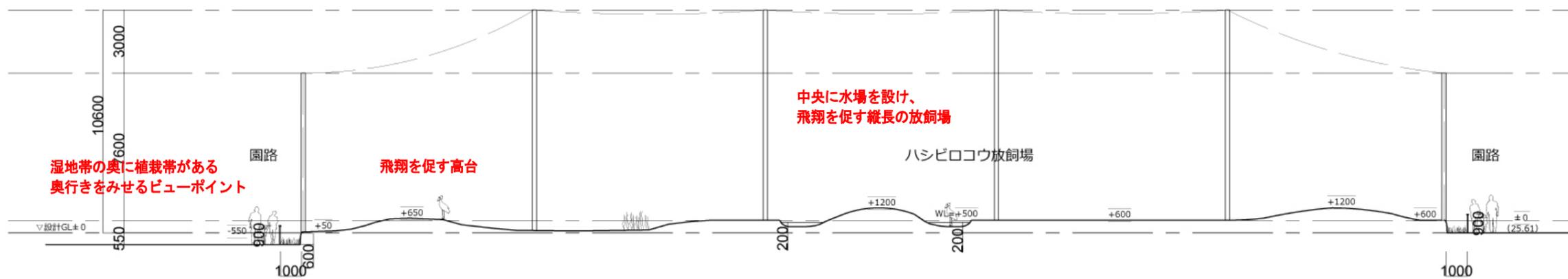


生息環境表現

- ・ダンチク (奥)
- ・ニオイシュロラン (アクセント)
- ・クワズイモ (手前)
- ・ソテツ
- ・パピルス (手前)
- ・ハラシ
- ・ヤシ (アクセント)
- ・ティフトンシバ



A-A断面図



B-B断面図

——— : 計画レベルを示す
 () : 既存レベルを示す
 設計GL = (25.61) = ±0 とする



2. 空間デザイン ③湿原ゾーン カピバラ・ショウジョウトキ



園路の高低差を利用し、
エリア全体を眺める
ビューポイント

湿原の森林帯を
表現するエリア

水を渡って餌を食べる姿

水場は深い部分と
浅い部分を併設

居場所となる離島

湿原帯での行動を
みせるエリア

カピバラの遊泳を
促す水流

開けた草原を歩く姿
をみせるエリア

羽繕いの姿

深さ抑えた水場

ショウジョウトキとカピバラ
の通景展示



生息環境表現

・ホテイアオイ



・シャクナゲ



・セイヨウバクチノキ

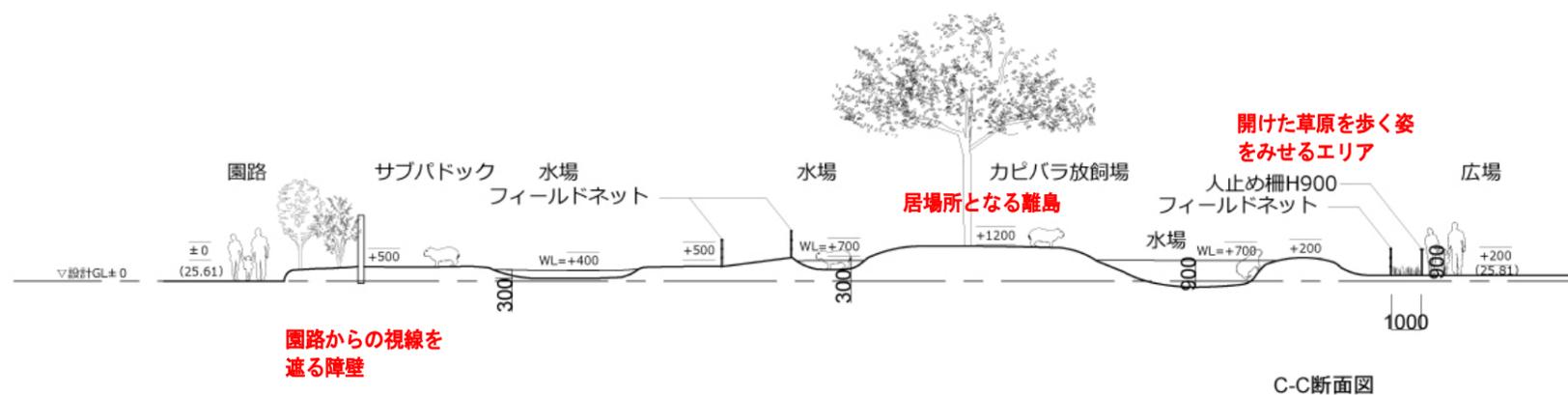


・ユズリハ



・カミヤツデ



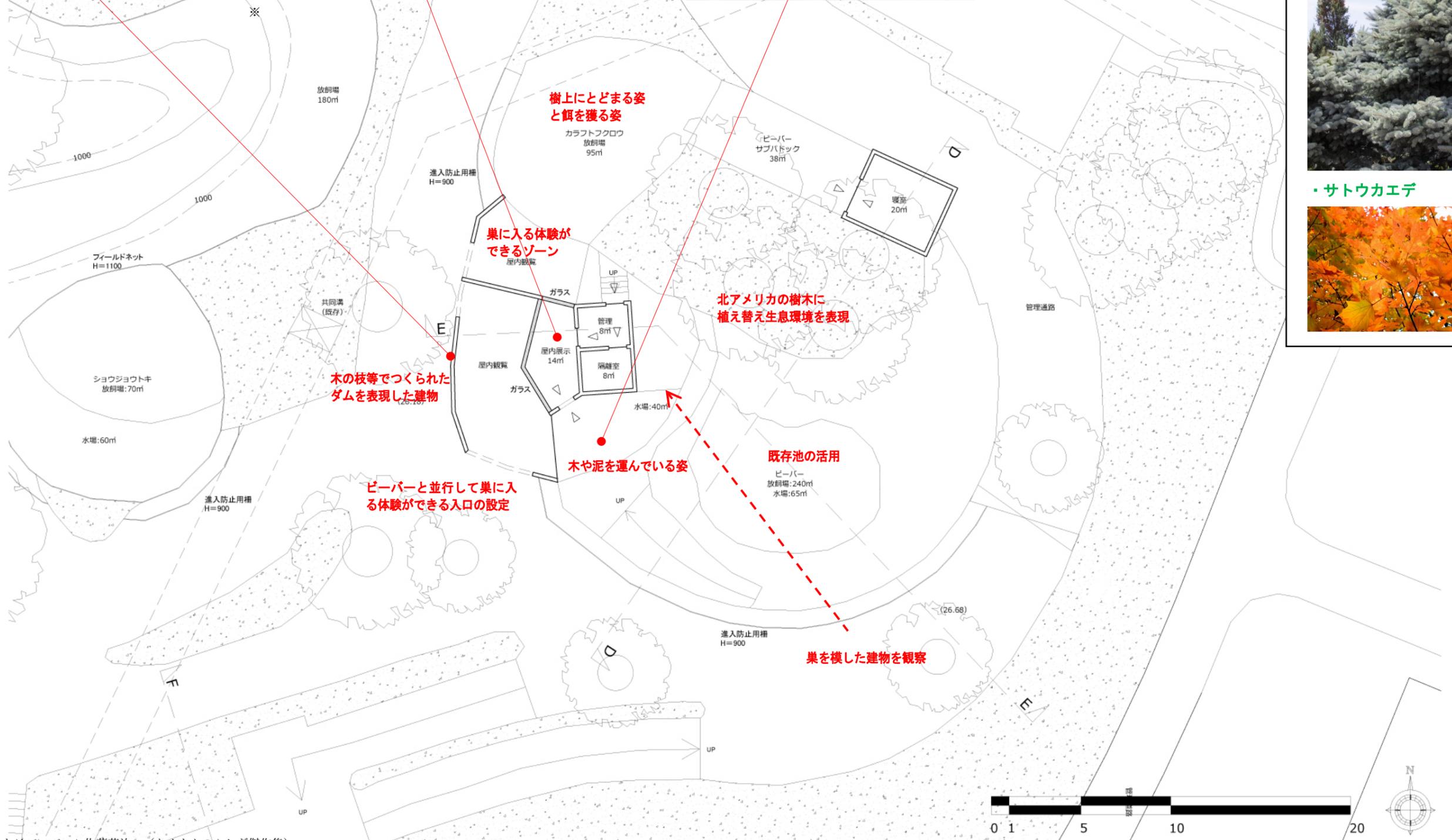
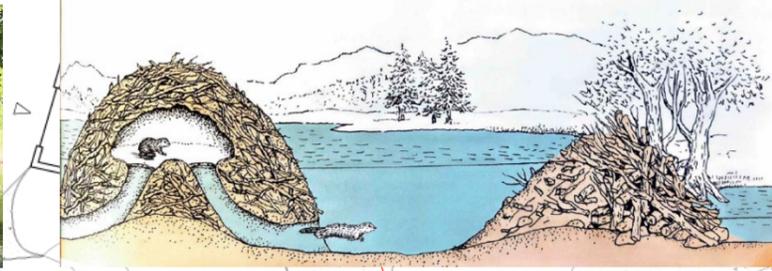


C-C断面図

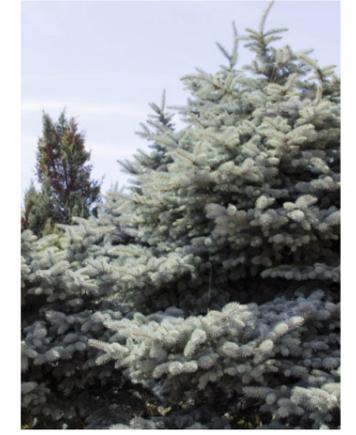


_____ : 計画レベルを示す
 () : 既存レベルを示す
 設計GL = (25.61) = ± 0 とする

2. 空間デザイン ③湿原ゾーン ビーバー・カラフトフクロウ



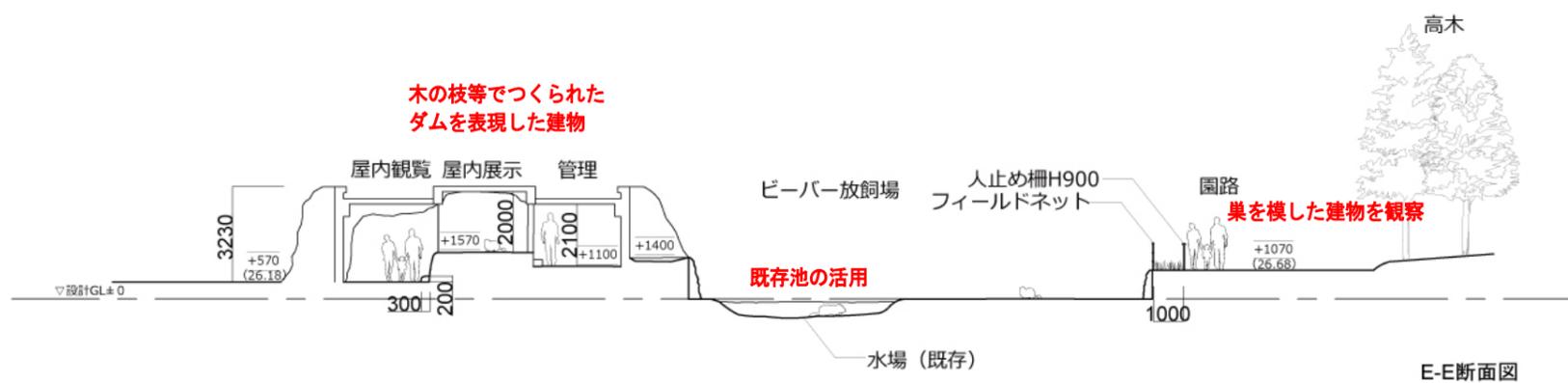
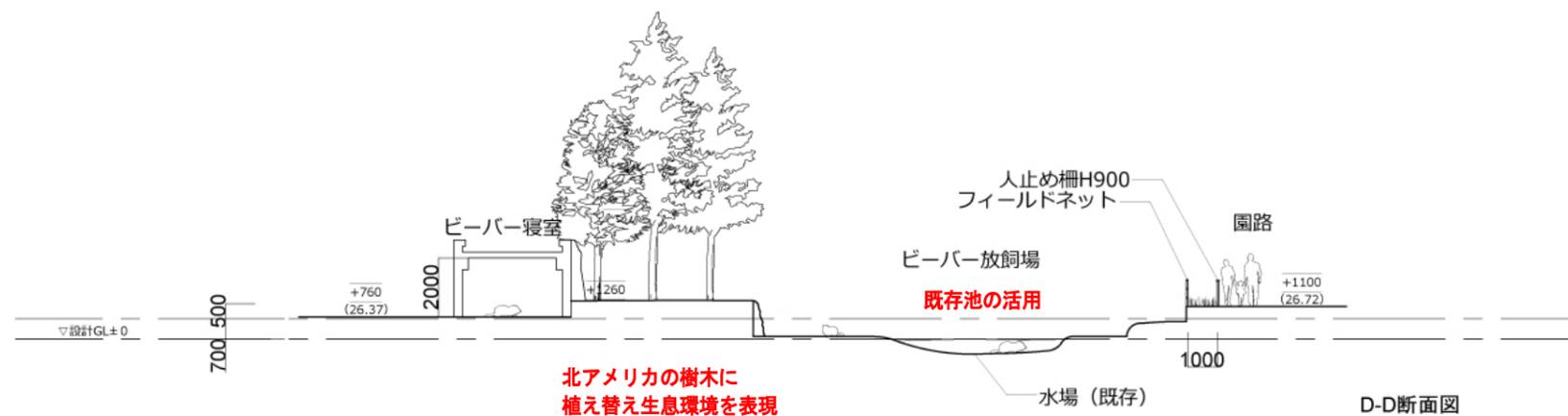
生息環境表現 (北米)
・コロラドトウヒ



・サトウカエデ

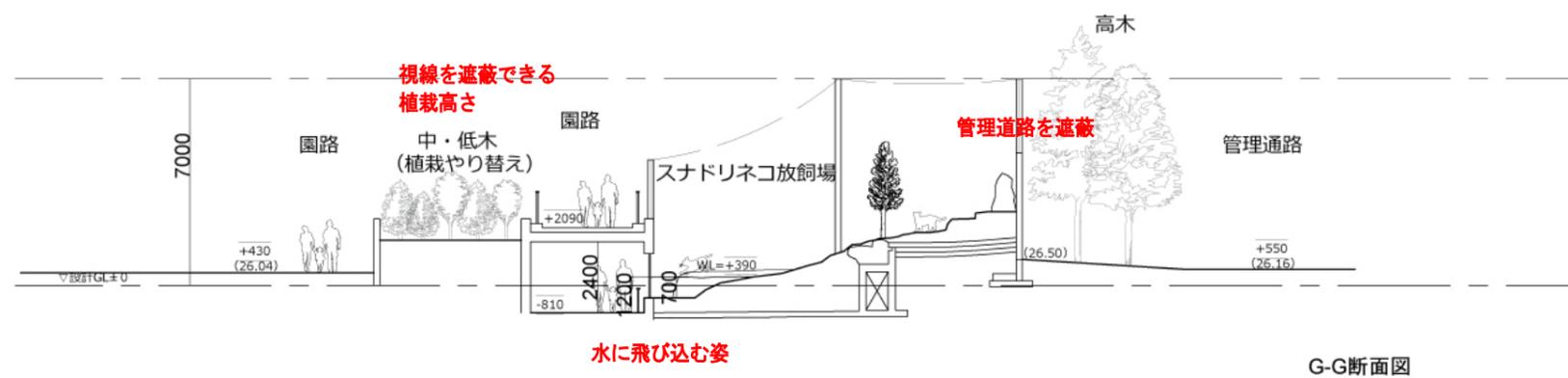
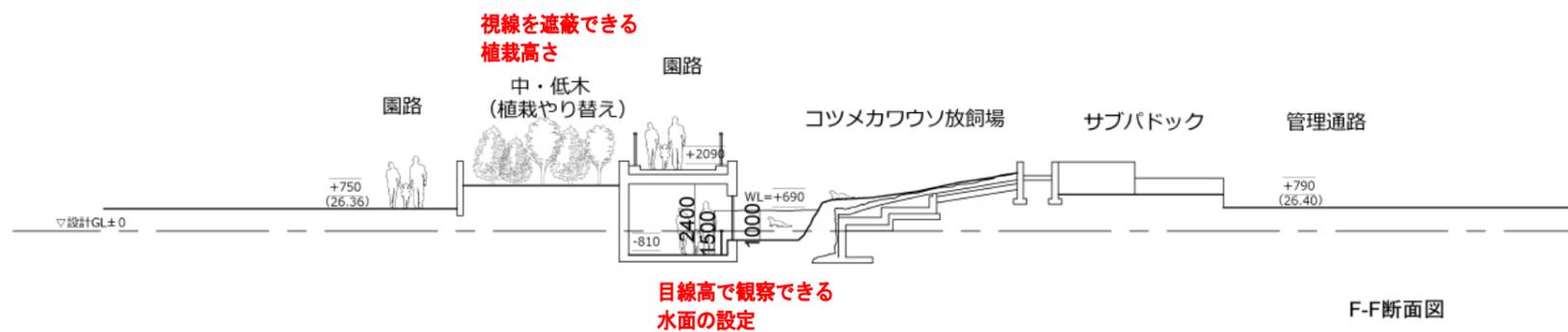


※ 「こんにちはビーバー」佐藤英治 (たくさんのふしぎ傑作集)



——— : 計画レベルを示す
 () : 既存レベルを示す
 設計GL = (25.61) = ±0 とする





——— : 計画レベルを示す
 () : 既存レベルを示す
 設計GL = (25.61) = ±0 とする



Ⅲ. イメージ図

③湿原ゾーン ハシビロコウ展示のメインビュー



③湿原ゾーン カピバラ展示のメインビュー



③湿原ゾーン ビーバー展示のメインビュー

